



「防災力」

～人と地域が共に支え合うまちづくり～

岩手県一関市藤沢町婦人消防協力隊 隊長
千葉とき子



1 はじめに

藤沢町は、一関市中心部から約 20 km 離れ岩手県の最南端に位置しています。

県境に位置している地理的特徴から、隣接する宮城県気仙沼市及び南三陸町とは古くから人々の交流が盛んに行われてきました。先の東日本大震災においては「近(きん)助(じょ)」の精神により、婦人消防協力隊と地元の各種団体・企業などが協力し発災直後から避難所への支援物資の輸送や、現地に赴いて応急炊き出しなどの支援活動を行いました。

私たち藤沢町婦人消防協力隊は、平成 28 年 4 月 1 日現在 231 名の隊員で構成し、「火災予防は家庭から」を合言葉に、微力ではありますが地域の見守りと防災活動に取り組んでいます。

2 消防団とともに大規模演習に参加

平成 27 年 10 月 18 日、岩手県消防協会一関地区支部主催による「平成 27 年度岩手県消防協会一関地区支部消防連合演習」が行われました。

この演習は、消防団員の消防技術の向上と各消防団の連携を強化するとともに、住民の防火・防災意識の高揚を図ることを目的として毎年開催されており、今回は私たちの地元である藤沢町を会場に、消防・防災関係者等 900 名が参加して大規模な演習が行われました。

初期消火訓練では、消防団が現場到着するまでの間、婦人消防協力隊と自主防

災組織の皆さんが協力して、火災の発生を想定した建物へバケツリレーによる初期消火を行いました。迅速かつ的確なバケツリレーは十分な効果があることを確認でき、いざという時の心構えを新たにすることができました。



平成 27 年 10 月 18 日開催
岩手県消防協会一関地区支部消防連合演習より
『初期消火訓練の様子』
※自主防災組織と婦人消防協力隊による訓練

大規模災害時における活動隊や避難住民への支援を目的として行われた応急炊き出し訓練は、私たち地元の婦人消防協力隊や自主防災組織はもちろん、市内 7 つの婦人消防協力隊と隣町の平泉町婦人消防協力隊からも協力を頂き行われました。約 60 名で構成された応急炊き出し班は、白米 120 kg を水で研ぎ、炊飯から始めました。炊飯されたご飯に塩漬けして刻んだシソの葉を混ぜる人、おにぎりを握る人、パックに詰める人など役割を分担し、演習想定時間内に 1,900 個(2 個入り 950 パック)の調理を完了させることができ、東日本大震災で被災地支援として行った応急炊き出しのノウハウが生



平成 27 年 10 月 18 日開催
岩手県消防協会一関地区支部消防連合演習より
『応急炊き出し訓練の様子』
※統監（一関市長）の訓練巡視の様子



平成 27 年 10 月 18 日開催
岩手県消防協会一関地区支部消防連合演習より
『分列行進の様子』
※統監部前を分列行進している様子

かされた訓練となりました。おにぎりは、演習に参加した方々にお配りし、作製時の苦労を忘れさせてくれるような高い評価を頂きました。

また、多数傷病者の発生を想定して行われた応急手当及び搬送訓練は、隊員が 5 人 1 組のチームを作り、想定傷病者へ三角巾やあて木を用いた応急手当を実施し、手当完了後は応急担架を作成して応急救護所に搬送するという訓練内容でした。

多くの消防団員や防災関係者の方々が



平成 27 年 11 月 15 日実施
秋の全国火災予防運動『消防団と連携した火防点検』
※春と秋の火災予防運動では消防団と連携し
火防点検を行っています。

見守る中で大変緊張しましたが、日頃応急手当の訓練に取り組んでいることから、迅速かつ丁寧な応急手当活動を行うことができました。

3 おわりに

地域防災の向上には、多くの人々や団体の連携が重要であることを改めて感じた演習となりました。人と人、地域と地域が共に支え合う社会を作ることこそが、これからの地域コミュニティと町づくりには重要であり、やがてそれは「防災力」という大きな力を発揮してくれるのです。

「防火・防災の輪」が次世代に受け継がれる地域づくりのために、住民と消防団、私たち協力隊が一体となり、演習で感じた達成感を胸に更なる地域の絆と防災力の向上を目指し活動を続けてまいります。

